

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平成30年度病虫害発生予報第3号

平成30年5月31日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — —	並 少 少 並
ジャガイモ	疫病	やや遅	並
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 並 — やや遅 — —	<b>やや多</b> 並 <b>多</b> 少 並 並
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	並 並 並 並	並 並 並 並
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	並 並 —	並 並 <b>やや多</b>
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— やや遅 並	<b>やや多</b> 並 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	— —	<b>やや多</b> <b>やや多</b>
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	並 並 並
キ ク	白さび病 ナミハダニ	やや遅 やや遅	やや少 並

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

#### (2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は3頭であり、平年(74.6頭)より少なかった。

#### (3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生は認められず、平年(19.0頭)より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

#### (4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

### (ジャガイモ)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月16日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 2. 果 樹

### (モ モ)

#### (1) 灰星病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 5月23日の巡回調査における芽枯れ、枝病斑の発生量は平年並であったものの、5月10、11日の巡回調査における花腐れの発生圃場率は21.4%で平年(12.1%)よりやや高かったことから、幼果への感染量は平年よりやや多いと考えられる。
- イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

## (2) 黒星病

予報内容

発生時期 **並** 発生量 **並**

予報の根拠

- ア. モモの生育は平年並に推移している。
- イ. 5月23日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並であった。
- ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日(果実生長第2期以降は20日)とされている。5月の降水量は平年並であったため、幼果への感染は平年並と考えられる。

## (3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

- ア. 5月23日の巡回調査によると、発病葉の発生圃場率は50.0%で平年(6.4%)より高く、また、発病果の発生圃場率は32.1%で平年(0%)より高かった。
- イ. 5月24日の季節予報によると、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。
- ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生助長要因である「昨年の8月中旬の発生圃場数」は多い(岡山県病害虫防除所調査)。

防除上の参考事項

- ア. 病害虫発生予察注意報第1号(4月19日発表)、第2号(5月16日発表)、植物防疫情報第1号(4月6日発表)、第4号(5月28日発表)参照。

## (4) モモハモグリガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 **やや遅** 発生量 **少**

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年(14.7頭)より少なかった。
- イ. 5月23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(7.9%)より低かった。
- ウ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

## (5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年並(3.4頭)であった。
- イ. 5月23日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は7.1%で平年(6.8%)並であった。
- ウ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は27頭で、平年(26.0頭)並であった。フェロモントラップでの誘殺数は140頭で、平年(210.9頭)より少なかった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年並で推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、ネオマスカットにおいて、5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月23日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病をやや助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年並で推移している。

イ. 5月の日照時間は平年並で、本病の発生を特に助長する気象条件ではない。

ウ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病を抑制する条件となる。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年並で推移している。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病をやや助長する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査によると、被害発生圃場率は9.1%で、平年(7.5%)並であった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23、25日の巡回調査では発生を認めず、平年(5.6%)並であった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病をやや助長する条件となる。

## (2) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23、25日の巡回調査によると、発生圃場率は57.1%で平年(48.6%)並であった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病をやや助長する条件となる。

## (3) 葉かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月23、25日の巡回調査によると、発生圃場率は57.1%で平年(19.5%)より高かった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期(雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬)と病勢進展時期(7月下旬～8月上旬)に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

## (1) ベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月23、25日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(30.3%)より高かった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病をやや助長する条件となる。

## (2) 褐斑病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23、25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(12.5%)よりやや低かった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではアミスター20フロアブル、トップジンM水和剤、カンタスドライフロアブル、ゲッター水和剤耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23、25日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月25日の巡回調査では、発生圃場率は60.0%で平年(6.9%)より高かった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

(2) コナガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は243頭で、平年(17.9頭)より多かった。

イ. 5月25日の巡回調査によると発生圃場率は20.0%で、平年(35.8%)よりやや低かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 並  
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は548頭で、平年(610.4頭)並であった。

イ. 5月23、25日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年並であった。モザイク病は発生を認めず、発生圃場率は平年(キュウリ:2.5%、トマト:1.2%、キュウリ、トマトともに直近10年のうち発生は1年のみ)並であった。

ウ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が平年並に推移した場合には本虫の発生をやや助長する条件となる。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件となる。

4. 花き

(キク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（12.1%）よりやや低かった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（2.5%）よりやや低かった。

イ. 5月24日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が平年並に推移した場合には本虫の発生をやや助長する条件となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。

